

令和3年度 学校評価書

浜松学院大学附属幼稚園

教育目標 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」

1 本年度の重点目標

- ・ 支援を要する子どもへより適切な対応を心がける
- ・ 教育環境の見直し

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※ 総合評価 B

評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表す

自己評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価より	評価
B	保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任、副担任、補助教員、預かり保育、バス添乗、管理職、事務職、用務等、各々の立場で、子どもを第一に考えた計画を立て、実践するよう心掛けた。 ・ 計画的に保育を行っているつもりでも、行事近くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の保育や行事の進め方を今一度見直し、現在の社会情勢に合わせた方法を考える。 ・ 短い時間でも、クラス毎の話し合いができるよう、時間を取る、または、紙面共有する。 ・ 現状でできることを見極めな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍において、計画通りに進められないことが多い中で、園児の様子をふまえて様々な活動を行ったことは、子どもにとって良かったと思う。また、そのような状況において、新しい取り組みを検討しているところは、今の社会環境の中で求められる子どもの育ちを支えることに繋がり、園の教育をより豊かなものになっていくことができる。 	A

		<p>と、余裕がなくなることがあり、反省している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においての新しい取り組みを検討実施するよう心掛けた。 	<p>がら、子どもの育ちに寄り添った保育を計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な業務や流動的な対応を迫られる中、余裕がなくなることあり得る。もっと、保護者（特に父母の会常任委員）を巻き込んでも良いのではないかと思う。 ・コロナ禍にありながら、子どもがこの時期しかできないことを経験することに重きを置いて方向性を決定するリミットギリギリまで検討していた。 ・自由保育の中にも、計画性を持って担任の先生が保育に臨んでいる様子が見られた。 	
B	<p>保育の実践力と 環境設定 幼児への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に寄り添った援助と、それをクラス経営にどう取り込んでいくかを考えて保育をした。 ・自分の保育観をきちんと持ち、子どもの姿や興味に合わせた保育ができた。 ・子どもの様子や遊び方によって、遊びの設定を変えていかなければならないが、できなかったと反省する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と副担任、学年教員の話し合いと情報共有を、短時間で頻繁に行うことができるようにする。 ・他クラスの保育や活動を参考に、自分のクラスの保育や活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が常に子どもの姿を細やかに捉えようとしている。個々の子どもの良さを伸ばし、一人一人の発達課題をふまえた援助につながっている。 ・子どもの内面の理解をしようとしているところが、子どもたちの「園生活が楽しい」という声に現れている。 ・個々に寄り添う姿勢が見られた。 	A
A	<p>教師の資質 能力 適正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任は、自クラス以外の園児については限られた範囲の把握となること 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の仕方を、内容や迅速性を考慮して、適宜有効な手段を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの子どもたちや保護者だけではなく、園の子どもたちにも目を向けられるように情報共有を心がけた点は、園全体で子どもを育てることに 	A

		<p>は、反省点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師として、子どもや保護者は勿論、同僚への気配りや言動には、常に意識して気をつけるようにした。 ・社会人としての常識を備えていたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに尊重し合える教職員集団となるよう、日頃からコミュニケーションを取ったり、管理職との話し合いの時間を確保したりするよう努める。 	<p>繋がり、子どもや保護者との信頼関係が高まっていくので、掲示板使用等の工夫はとてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児数が多いため、他クラスの園児も全体で把握することは難しいと思われるが、その努力を期待する。 	
A	保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な考え方の保護者がいるので、園児同様、それぞれに合わせた対応を心がけた。保育者の気持ちがあまく伝わる時とそうでない時があり、悩むことがある。 ・保護者が安心できるように、子どもの体調面での見守りと報告を心がけた。 ・保護者へは、常に丁寧な対応を心がけた。また、正しい情報を伝達できるように、資料の読み込みを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、保護者と直接会う機会減っている現状では、おたより帳でのやりとりを心がける。 ・情報提供の内容は、迅速な対応が必要なこと、内容吟味が必要なこと等様々である。内容に合わせた情報発信の方法をとる。保護者の安心のためにも、迅速な対応を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもよりも大人への対応の方が大変ではないかと感じる。 ・コミュニケーションが少なくなると不安や不満が増えていくのは人間関係の常なので、負担が増えるかもしれないが、今までと同じようにクラス通信や個人おたより帳等々でやり取りをして欲しい。 ・保護者とのやりとりがコロナ禍で難しい中、おたより帳などで細やかに子どもの様子を伝えているのが、保護者のメッセージからも伝わり、教員の心遣いが伝わった。 ・保護者への回答を速やかに、適切に行うことが、一番大切な安心感を持ってもらうことになる。 ・おたより帳は、保育者（担任）の目から見た子の状況を知るツールのひとつでとても役立った。直接話す機会が減ったことは寂しいが、誠実な対応に感謝したい。 	A

C	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園外施設を利用することは、コロナ禍において消極的にならざるを得なかった。 ・浜松市療育機関の保育所等巡回を利用して、要支援児個別検討会を行い、具体的な見方・対応方法を学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外施設利用機会の検討をし、新しい活動を取り入れるよう心がける。 ・安心安全な利用ができる施設や方法を検討する。 ・要支援児理解を深めるために、来年度も浜松市保育所等巡回指導を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外施設の利用が今年度は難しい状況であったので、次年度可能であれば、園外のような環境に触れる機会を増やしていくことができると良い。 ・子どもがとった葉っぱやダンゴムシを一人一人ビニール袋に入れてくれて、持ち帰ってくるところを見ると、幼稚園生活の中で自然が身近にあるのがわかる。 ・季節を感じられる環境が園の周りに減っていることは残念である。 	B
C	研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・園外研修はオンラインが増加しているが、その時間確保がうまくできなかった。オンライン研修では、自身が受け身になっていたと反省する。 ・要支援児についての研修会に参加し、大変参考になったが、学べば学ぶほど、個々の対応について、学びを深めたいという思いが沸く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員の経験や課題を踏まえて参加する研修を選択する。教員自ら自主的に研修に参加したい。 ・研修に参加する際には、事前に資料を確認し、自覚を持って参加し、意見を言えるよう準備して臨む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の準備などで、研修時間の確保はなかなか難しいと思われるが、園内研修に参加して自らの保育を振り返ることができているようで良い。 ・子どもの姿も多様化しているので、次年度も保育の質保証という点から、子どもへの関わりについて学びを深めて欲しい。 	B

A	<p>保護者アンケート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の教職員の努力を、保護者が評価してくださっていることに感謝し、今後もより一層、努力する。 ・ありがたいお言葉を多くいただき、教職員も感謝している。これらを励みに更に頑張りたいという思いと同時に気の引き締まる思いも感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目別選択回答の「あまりあてはまらない」「いいえ」の少数回答に潜在する本音があることを自覚する。 ・行事の在り方について、匿名のメールがあり、その対応については、丁寧に説明した。 ・個々の意見や提案に対しては、教職員間で検討し、今後も「子どもにとって最善」を考え、保護者意見を取り入れる判断をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを受けての対応を見ていると、園全体が子どもだけでなく保護者のことも大切に思ってくれているのを感じる。 ・保護者から園へ感謝の言葉は何一つ媚びるものではなく、心からの言葉なのだと感じた。 ・園と保護者のコミュニケーションは、コロナ禍にありながらかなり丁寧にしている印象を受ける。 ・保護者からの様々なご意見を真摯に受けとめ、速やかに対応されているので先生方、そして園への保護者からの満足度も高まると思う。 ・保護者の思いや子どもにしてほしいことなどは、個々によって異なるのでいろいろなご意見があるが、多くの保護者の方々は、とても好意的で、教員が丁寧に関わっていることが反映されていると感じる。 ・日々大変なことが多いと思うが、これまで通り次年度も、子どもの「園が大好き」が「保護者の喜び」との思いで保育をして欲しい。 ・自分の子だけを見がちだが、クラスの子、園の子、集団の中で育てられている視点を持つと、他者を考えた行動ができると思う。 	A
---	-----------------	--	--	---	---

保護者アンケート総合結果 回収率94% (回答数254/269)

■ はい ■ 大体あてはまる ■ あまりあてはまらない ■ いいえ



